

AIのしくみと今後のセカイ

2025年は生成AI元年

今のAIの中心は
LLM (大規模言語モデル)

LLMの仕組み

1. 文章を「言葉のかたまり」に分ける

私は寿司が好きです

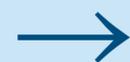


[私] [は] [寿司] [が] [好き] [です]

LLMの仕組み

2. 「次に来る言葉」を予測する

私は寿司が



好き (45%)

食べたい (30%)

嫌い (5%)

走る (0.0001%)

LLMの仕組み

3. これを 高速で何百回も繰り返して回答を作る

1. 一番「それっぽい」ものを選ぶ
2. それを文章に追加
3. また次を予測

なぜ「賢く」見えるのか？

- とにかく大量の文章を学習している
- 本 / Web / 論文 / 会話 / コード
- **「こういう文脈では、こういう言葉が来やすい」というパターンを何兆回も見ている**

ある種の確率論的なもの

AI業界のゲームチェンジャーは Transformer（トランスフォーマー）

「この文章の中で、どの言葉がどの言葉に関係しているか」を
全部同時に見る仕組み

太郎は花子に本を渡した。彼は…



【彼って誰？→太郎だよね】

このような関係性の重み付け を自動で行う

AIの学習方法

ひたすら（自分で作った）穴埋め問題を解かせる！

私は寿司が○○ → 正解：【好き】

自作自演の問題を作り
正解に辿り着くまで何億回も繰り返す

LLMの本質

- 本当はなにも理解していない
 - 感情も意識もなし、事実確認もしていない
 - 「それっぽい文章を作るのが超うまい」だけ
- 超高度な「変換予測」マシン
全人類の文章を丸暗記した超優秀な**予測変換の究極進化版**

AIの得意なこと

- **文章生成・言い換え・要約**

→「それっぽく書く」仕事は無双

【メール文作成】 【要点整理】 など

- **プログラミング**

→コードは「パターンが強い」「文法に決まりがある」「データが大量」

【よくあるパターン実装】 【エラーの原因推測】 【コード解説】 など

- **発想・ブレスト・壁打ち**

→正解がない、多様性が価値

【アイデア出し】 【命名案】 など

AIの不得意なこと

- ・ **事実の正確性**

→あくまで統計的な予測、検証の仕組みがない、学習データにより左右される

【最新の仕様】 【正確な料金】

- ・ **計算**

→「コトバの予測」であり実際には計算していない

【複雑な計算】

- ・ **「知らない」を認める**

→知らないの概念が無い

空白を埋めるのが仕事なので「分からなくても何かは出す」

今後人間がやるべきこと

マッキンゼーが特定した「AIに勝てる」3つの人間力

AIが進化する今、若手が磨くべきスキルとは？

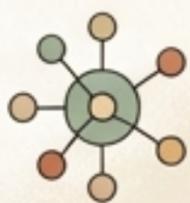


マッキンゼーでは、すでに2万 万5000のAIが働いています

グローバル・マネージング・パートナーのボブ・スターンフェルズ氏は、AIが「検索」や「要約」の最強のパートナーだと語ります。

マッキンゼー内のAIエージェント数

25,000



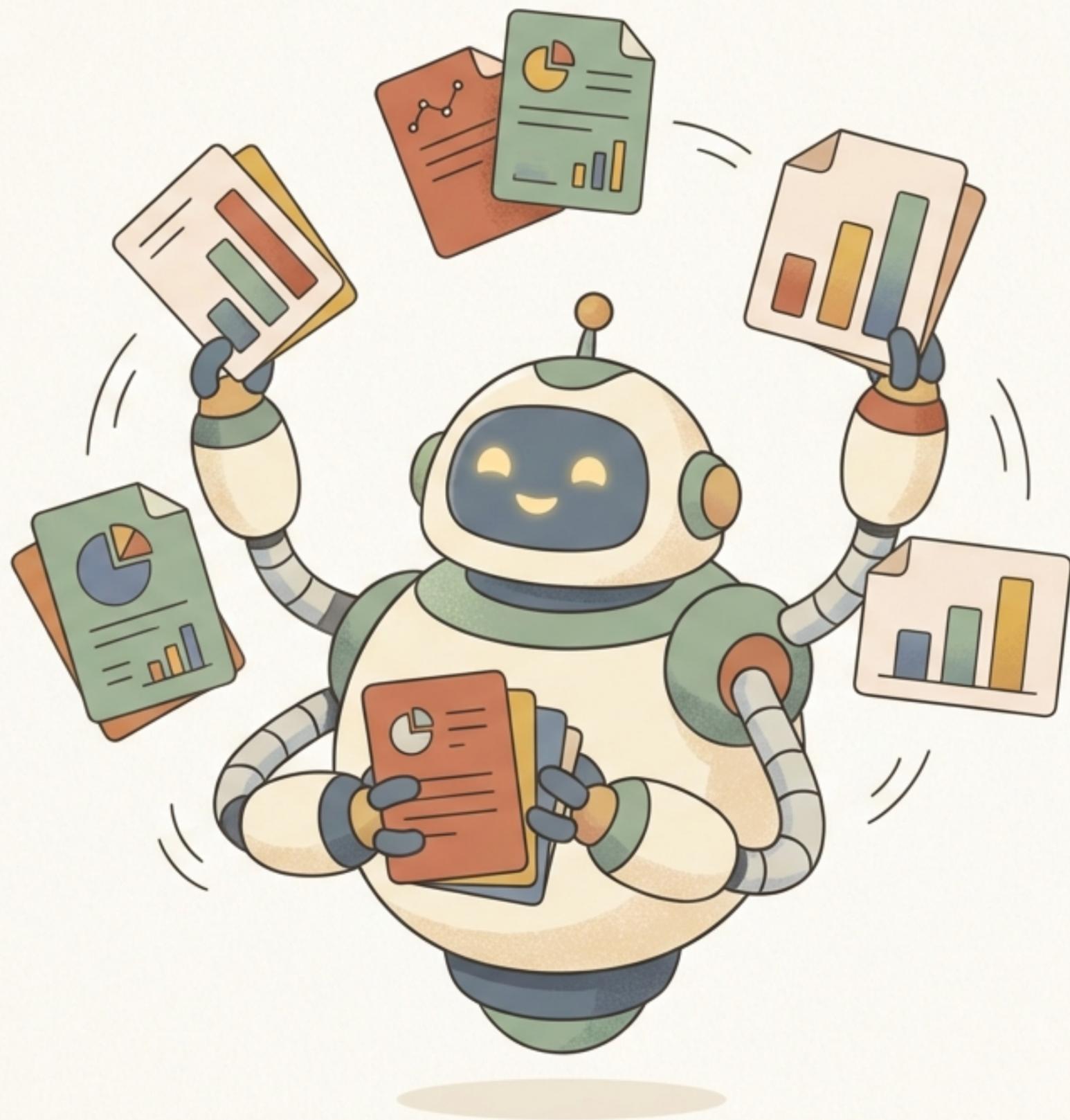
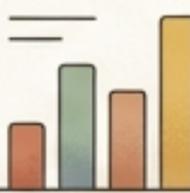
昨年削減された作業時間

150万時間



半年で作られたグラフ

250万点

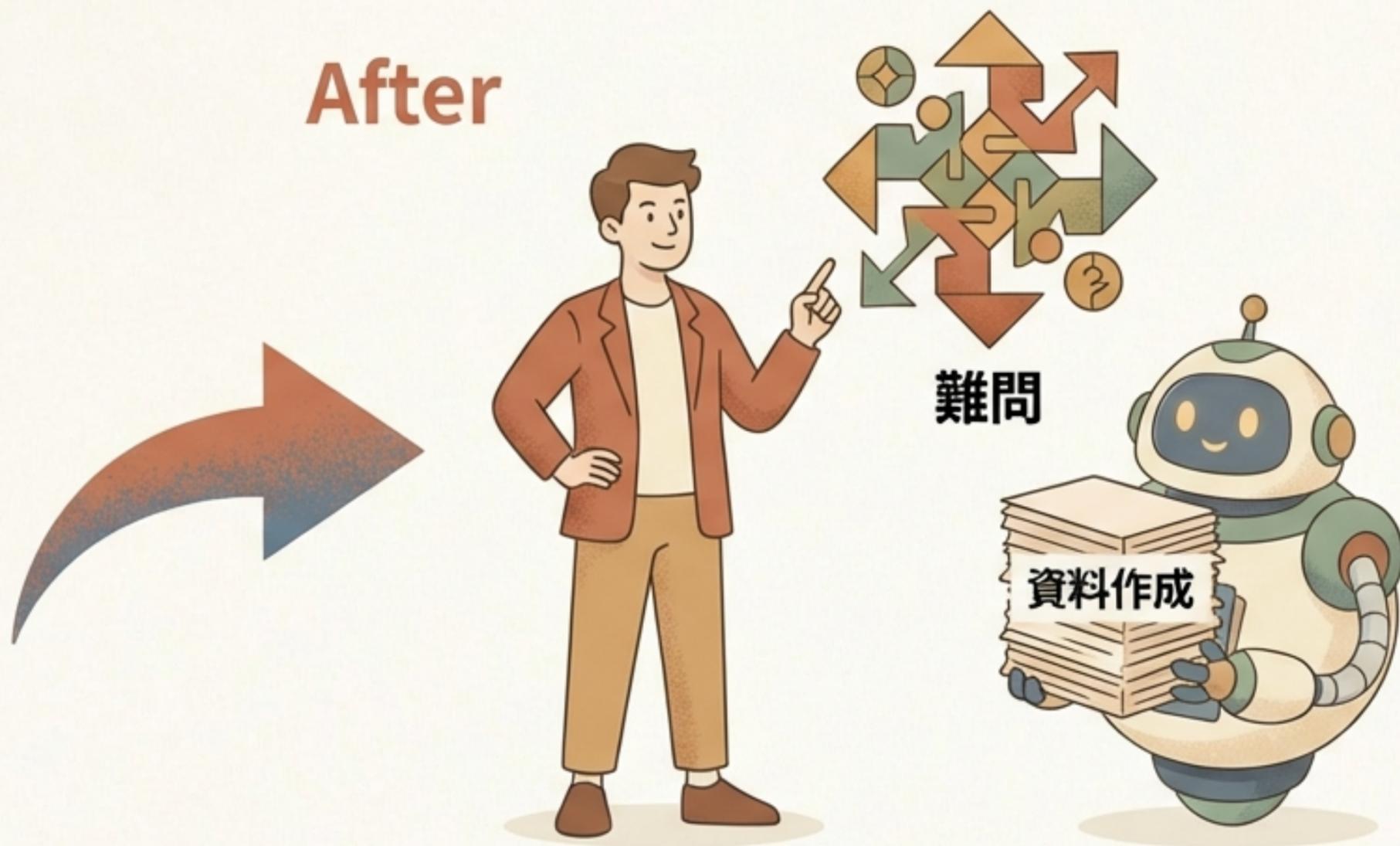


AIが「作業」を肩代わりし、人間は「難問」に挑む

Before



After



AIが得意なことは、AIに任せればいい。
コンサルタントたちは今、資料作成や検索の時間から解放され、
「より複雑で、答えのない課題」に取り組む時間が増えています。



AIがここまで優秀なら、私たちの価値は何でしょうか？

「すべての作業をAIがこなす世界で、人間に残されたものは何か？」

この問いに対し、マッキンゼーのトップが出した答えは、AIには決して真似できない「3つのスキル」



人間だけが持つ「3つの魔法の杖」



1. 志を抱く能力
(Aspiration)



2. 判断力
(Judgment)



3. 真の創造性
(True Creativity)

1. 志を抱く能力：行き先を決めるのはあなた

「AIモデルにできないこと。
それは『志』を持つことです」

AIは目的地までのルートを計算するのは得意です。しかし、「どこに行きたいか」という情熱や願いを持つことはできません。



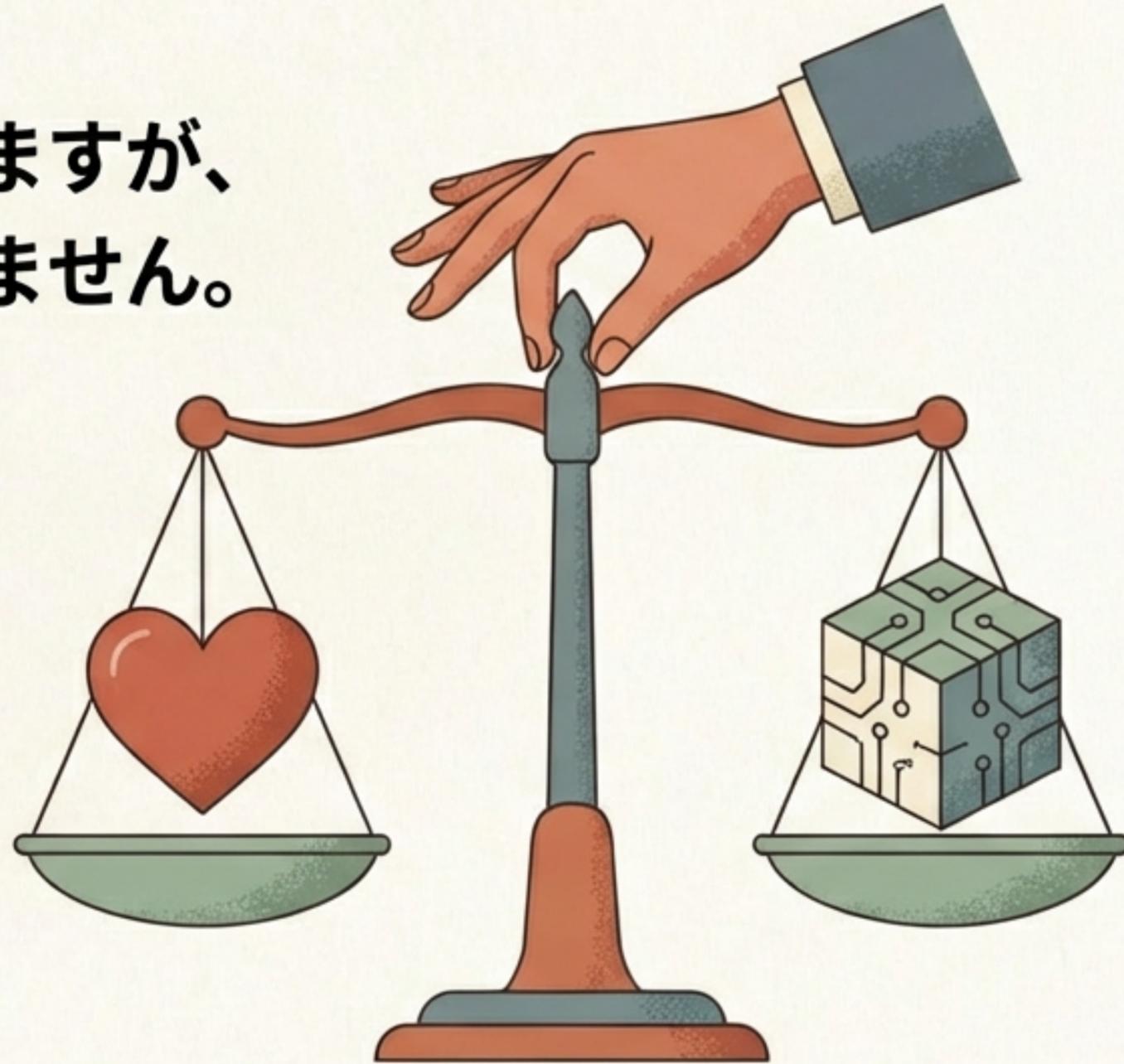
「月に行くか、火星に行くか」は計算できない

- 低軌道を目指すのか？ 月か？ それとも火星か？
- それを選択し、さらに「その夢を他人に信じてもらおう」こと。
- このリーダーシップこそが、人間固有の能力です。



2. 判断力：AIには「正解・不正解」がない

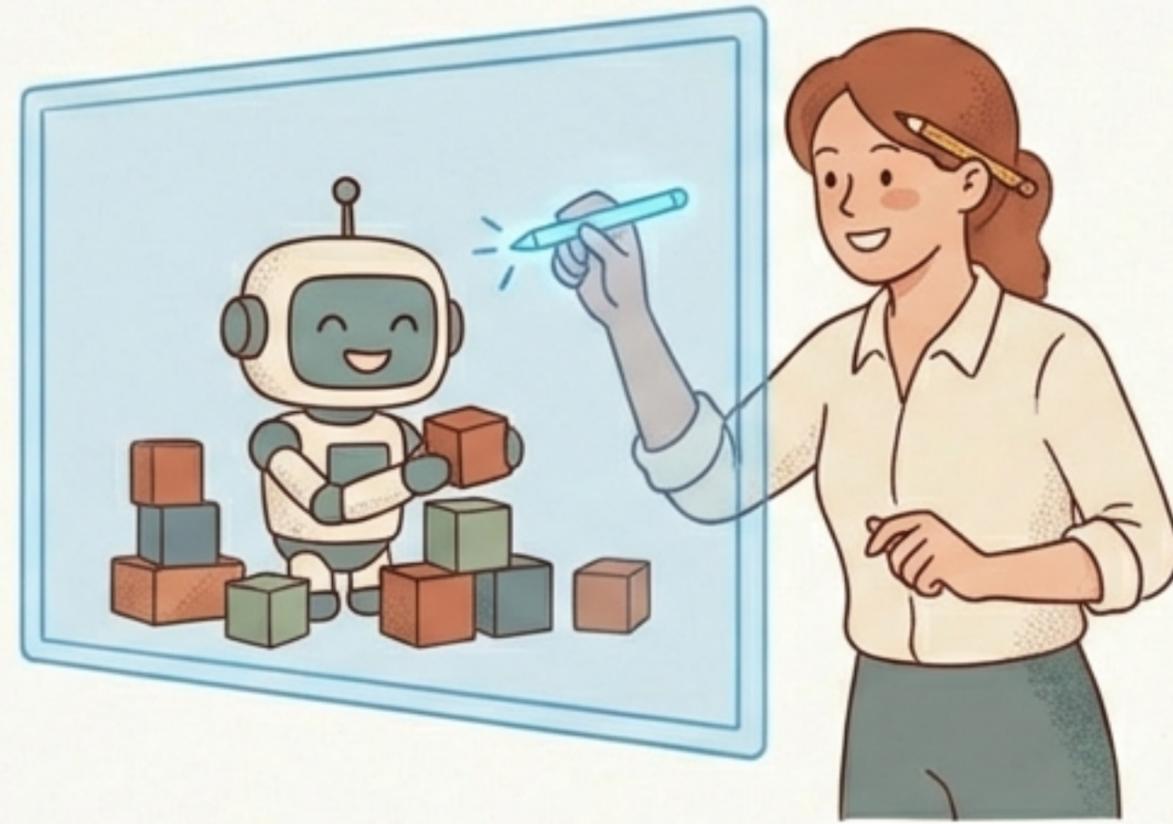
AIはデータを出せますが、
善悪の判断はできません。



「どのような前提で
AIを使うか？」
「その使い方は倫
理的に正しいか？」

この問いに答える
責任は、常に人間に
あります。

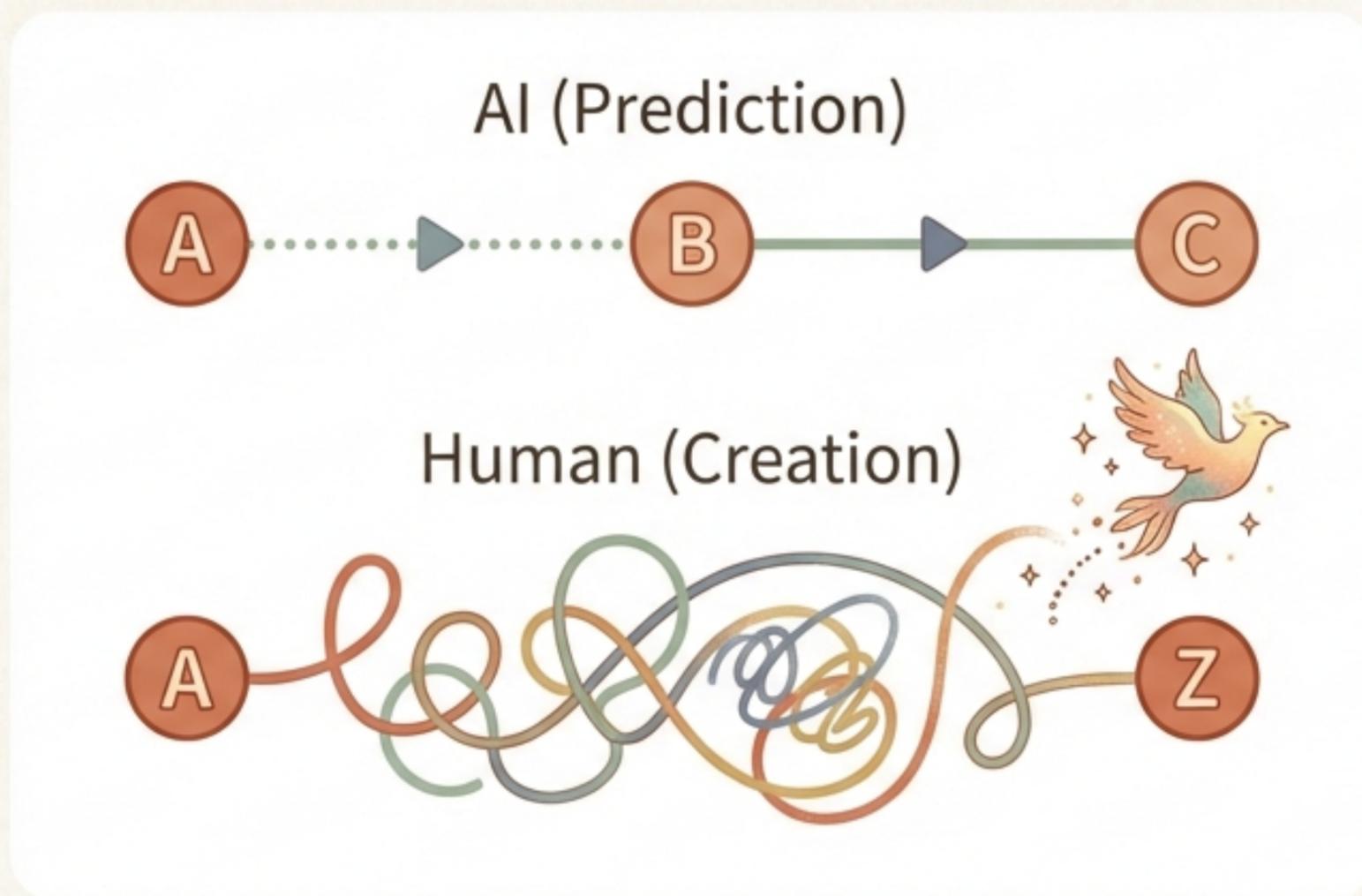
ルールと枠組みを作るのは、いつだって人間



企業の価値観や、社会的な規範。

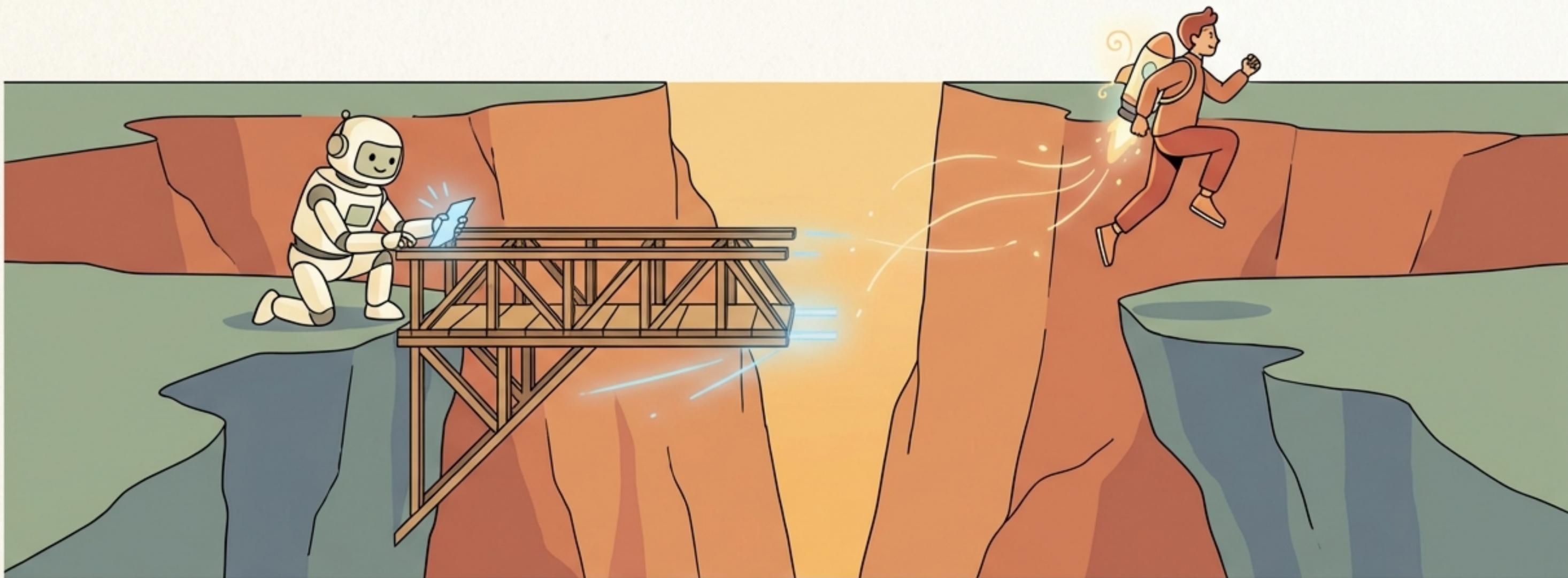
**そういった「人間社会のルール」を理解し、AIが動くための枠組み
(フレームワーク)を決める力が求められています。**

3. 真の創造性：予測ではなく、飛躍する



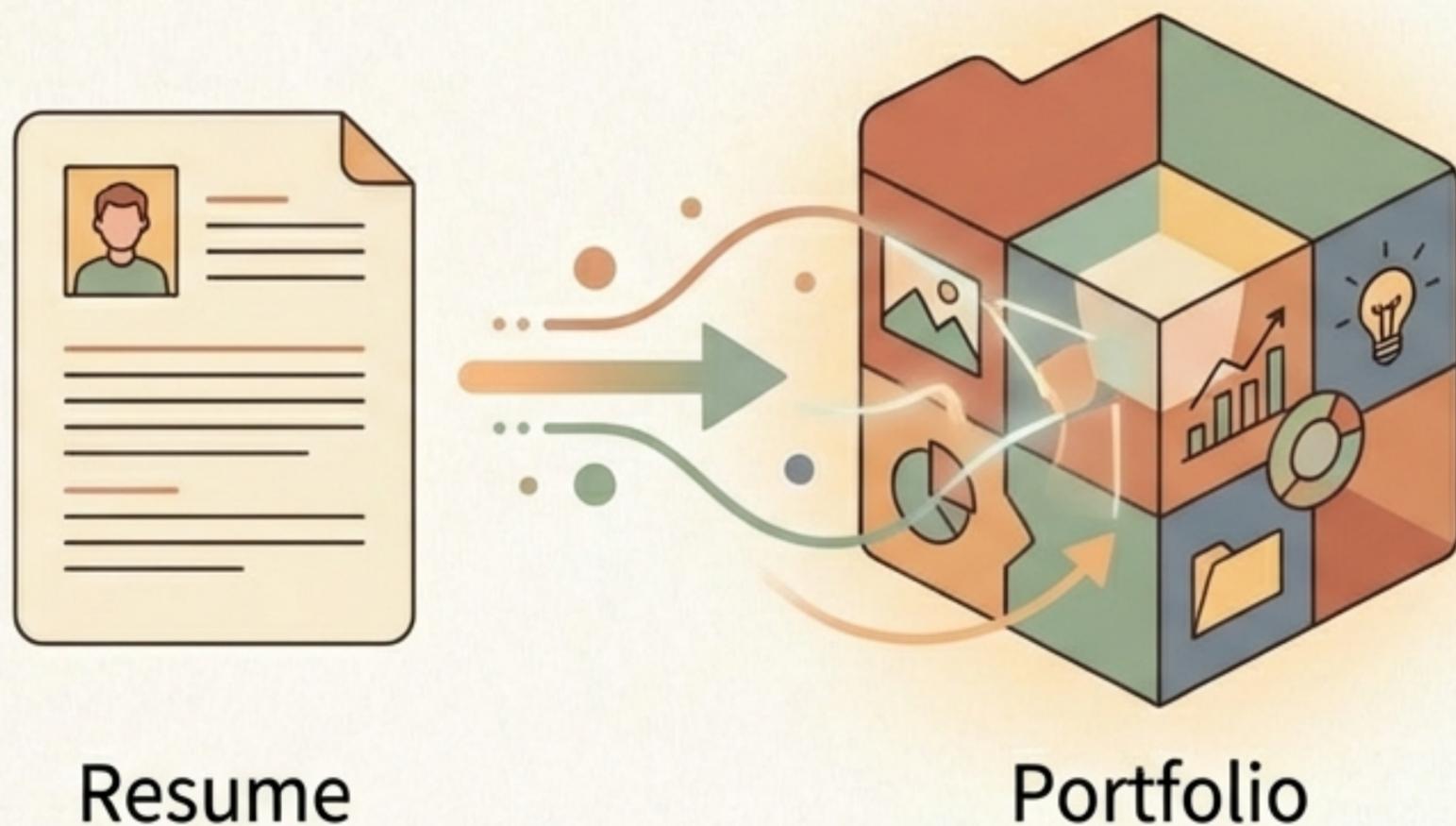
AIの本質は「推論モデル」です。過去のデータを基に、次に最も可能性の高いステップを予測しているに過ぎません。
それは「確率」の世界です。

過去のデータにない「新しい道」を描く



人間は、既存の枠組みにとらわれず、全く新しいアプローチにたどり着くことができます。
「次に来る予測」ではなく、「まだない未来」を想像する力が、真の創造性です。

これからの時代、企業の「人を見る目」が変わる



Resume

Portfolio

AIの導入によって、採用基準も変わり始めています。
「どこの学校を出たか」というブランドは、以前ほど重要ではなくなります。

学歴よりも「何を作れるか」



スターンフェルズ氏は強調します。

「出身大学を見るのではなく、GitHub（実際の成果物）を見よう」

これまでとは違う経歴の人たちが、実力で評価されるチャンスが広がっています。

AI時代の若手のための「生存戦略」まとめ

✓ 志を持つ（行き先を決める）



✓ 判断する（善悪とルールを決める）



✓ 創造する（枠を超えて飛躍する）



✓ 作る（学歴より、実際の成果を見せる）



AIは最強のエンジン。ハンドルを握るのはあなたです。



**AIという強力なパートナーがいれば、私たちはもっと遠くへ行けるはず。
さあ、あなたはどこを目指しますか？**